

21期

2004(平成16)年
9月13日～20日

オーストラリア連邦

団 長
松川 潤子
副 団 長
平良セツ子
事務局 長
伊波 博子
団 員
仲松 悦子
仲宗根 永
安座間葉子
比嘉 和子
生盛 智子
新里美智代
金城 周子
参 与
山城 正和
工藤 美香
(12人)



オーストラリア



訪問先の主な研修ポイント



ホームステイ先の皆さん



国立訓練学校 (TAFE)
於:メルボルン



視察の風景

訪問先の主な研修ポイント

メルボルンの国立職業訓練学校タイプ (TAFE)

ほとんどが働きながら学んでいて250のコースがあり、大学への編入や博士号も取得できる。産業界と連携が取れた技術取得が可能である。

メルボルンセントギルダ市役所

9万人の人口で市長・副市長・議員は7名(女性は2名)何度も女性の市長が誕生している。議員はボランティアなので議会は夜行う。傍聴席にマイクがあって市民が意見を言える。税金は所得の33%～49%。ほとんどを社会保障・医療・福祉・教育にあてる。

メルボルンの高齢者入居施設 (ヤラビルビレッジ)

セキュリティが万全。介護度は8段階。年金の85%が個人負担。服薬は薬剤師が1週間分をバック詰めにした顔写真で管理。すべて個室でシャワー・トイレが完備。

シドニーの女性支援センターWLRC

社会的・経済的に不利な立場にいる女性を法的に支援する機関。主な女性問題はDV。離婚率は46%。

シドニー市街のクローマー小学校

国民は誰でも公立学校では初等、中等教育を受ける権利がある。多岐に渡る選択科目が用意されている。みんなの前で話す「ストーリータイム」が設定され、自分を表現する基礎づくりがなされている。遅れのある子に教師が個別に指導。母親の80%が就労しており、学童保育は民間会社が校内の空き教室で運営している。



シドニー女性支援センターWLRC訪問
19名の弁護士及び35名のスタッフが支えている



シドニークローマー小学校訪問
安里屋ユンタを虹型衣装で披露・折り紙を紹介

今後、私達の期で取り組みたいこと！

オーストラリア研修で学んだことを生かして、地域に根をはった活動をそれぞれが取り組む

- ① 女性の地位向上、男女共同参画社会の構築のためボランティア、各種役員を積極的に引き受ける。
- ② 市長と語るつどいやいろいろな場で地域の発展、より良い社会づくりのために意見を提言。
- ③ 21期の交流を定期的に行ってお互いの情報交換を図る。
- ④ 沖縄県女性の翼の会の研修会や事業及び各地域の女性の翼の会会合等に積極的に参加をする。

現在の各地域での活動状況役職等

安座間葉子

沖縄県保育協議会会長
ひまわり保育園園長

生盛 智子

八重山法人会女性部会役員

比嘉 和子

嘉手納町母子保健推進員
食生活改善推進員

金城 周子

うるま市教育委員会社会教育指導員

仲宗根 永

裁判所等での通訳(韓国語)

平良セツ子

沖縄県宮古地域産業保健センター
健康相談員

伊波 博子

コザバプテスト教会通訳(英語)

松川 潤子

うるま市石川女性海外・国内研修生連絡協議
会会長(虹の会)

新里美智代

保育所・老人ホーム等でボランティア活動

仲松 悦子

福祉施設介護職員

表彰者

松川 潤子

2008年 全国社会福祉協議会会長表彰

平良セツ子

2011年 秩父宮妃記念結核予防保健看護功労賞

研修後の活動及び団員の親睦、交流等



報告会で披露するための練習風景
教えてもらったカウボーイダンスを地域でも披露



うるま市「市長と語るつどい」で提言

赤十字奉仕団(安座間葉子) 虹の会(松川潤子) = 2015



うるま市石川女性海外国内研修生連絡協議会

(虹の会) 男女共同参画推進の講演会2015



医療・保健ボランティア活動

宮古島市トライアスロン大会救護班(平良セツ子)

22期

2005(平成17)年
9月3日～17日 **B班**
10月25日～11月3日 **A班**

カナダ
アメリカ合衆国

団 長

親川裕子

団 員

玉元一恵
大城正美
宮城公子
(4人)

2005年度は「沖縄女性財団」が自主企画による公募を行い調査費用の一部を助成するという形式で実施した。その結果2グループが選抜された。

研修場所の選択、先方との連絡や申し込みなどすべて2グループが自主的に行った。

A 班

カナダ(バンクーバー)

・玉元一恵(班長)
・大城正美



玉元一恵



大城正美

研修内容

・女性の地位向上 ・子供の人権啓発活動及びサポート等を研修

研 修 内 容

暴力の防止には4つの関係機関の連携が必要とされていることを念頭に視察、インタビューを行う。

啓発 バンクーバー市警、BWSS、SWAN、VLMMFS
バーバラ・ペイン、リンダ・ジンガロ、バンクーバーアートギャラリー、他

介入 バンクーバー市警、BWSS、SWAN、VLMMFS

治療 女性病院、こども病院、バーバラ・ペイン、リンダ・ジンガロ、サリー・ハリデー

研究 リンダ・ジンガロ



先進地の取り組みに驚き!

バンクーバー市警では「性犯罪課」はもちろん「DV/ストーカー班」の特殊捜査課があり、警察官と専門のソーシャルワーカーと二人一組で捜査にあたっていた。

被害者とその周りの生命を第一の視点はさすがだった。

カナダ班の現在

研修の成果を生かし、それぞれ、女性や子どもの人権のことを真剣に考え、相談員、講演会活動やイベント誘致など現場の第一線で活動中。



BWSS
DVを受けている女性へのサポート

バンクーバー市警性犯罪課にて



B 班

アメリカ(ニューヨーク他)

・親川裕子(班長)
・宮城公子



親川裕子



宮城公子

研修内容

男女共同参画社会の先進的な取り組み、特に大学に女性センターが設置され地域をサポート、ジェンダー的課題解決の寄与等研修

大学内に設置されている女性センターの視察

視察した大学

・ブラウン大学 ・プリズマ大学 ・エール大学
・コーネル大学 ・タフツ大学

目 的

男女共同参画社会基本法の制定後、各行政の男女共同参画実現を目指しつつ、なかなか実現に結びつかない現状がある。そのこともふまえ、学校現場で何が出来るか考えるきっかけの一つになればと思う。

現在に通じること

若年層の妊娠出産が全国一高い沖縄の現状を見たとき、大学生でも妊娠出産という可能性はある。そのような時、女性センターの設置は急務だ。

さらに、貧困の連鎖解決が声高々に言われている現在の状況を思うと尚更、この研修の意義を感じる。



ブラウン大学キャンパスにて



SDWCの
ゲイルさんと

23期

2006(平成18)年
11月2日～5日

中華人民共和国
／上海・蘇州

団長

仲座スガ子

副団長

當間美智子

事務局長

新垣 洋子

団員

有島 清子

古波蔵ひろみ

呉屋智恵子

津波古智枝子

宇保トキ子

小橋川静子

座間味正子

友利キミ子

浦崎美智子

金城 則子

友利 律子

金城美津子

棚原利栄子

吉田トメ子

川満 仁乃

洲鎌久美子

参 与

仲宗根幸子

(20人)

研修内容

環境、食文化、子どもの教育の3グループに分かれ質問内容を準備し意見交換会

環 境 日本のゴミ分別は世界でも進んでいると評価され、上海市の分別は厳しい状況であった。

食 文 化 年々糖尿病が増え、子どもたちはファーストフードの食事で肥満児が増えている状況があった。

子どもの教育 上海の子どもは家庭教育より社会教育が重視されていることや中国の一人っ子政策の当事者(学生2人)から話を聞くことが出来た。

訪 問 先

1. 上海市婦人連合会
2. 上海市婦女幹部学校
3. 上海市浦東新区婦女発展指導センター
4. 蘇州維安田服飾工芸有限公司
5. 蘇州刺繡研究所
6. 上海博物館



上海市婦人連合会との活発な意見交換会



歴史的な文化にふれ感動した蘇州



研修も無事終了笑顔満開

研修後の団員の親睦、交流

23期有志の会は2011年「大地の会」覚書きを作成し、企画・運営。
定期的に地域の情報交換とボランティア活動、学習会等を通して友情を深めています。



平成28年7月 大地の会親睦会



県内一泊研修



県内一泊研修



苔玉盆栽作り



23期で台湾研修企画



1998年設立の浦東新区婦女発展指導センター



上海婦女連合会との意見交換会と歓迎会(楽しかったな！)



県内一泊研修

23期オリジナルコーナー(会員の講師による学習会)

1. 保険を学ぶ
2. 健康講座(薬の活用)
3. クラフト(エコバック作り)
4. 食育教育
5. DVから女性を守る
6. リース作り
7. 瀬長島ショッピングモール視察
8. 苔玉盆栽作り
9. いけばなインターナショナル基地内Xmas交流会
10. ハーブのピネガー作り

※南部一泊研修(沖縄の結髪文化の講話から琉球の女性史を学ぶ)
※台湾研修(23期で企画＝翼の会を広く理解してもらうため友人達も参加)



上海の朝市(木の実や種・豆類の種類豊富さにビックリ！)



100%の就職率を誇る家政婦の訓練模様に感動・感心

地域活動

しののめケアハウス代表・愛隣園理事長・沖縄駐留軍離職者対策センター主任相談員・いけばなインターナショナル沖縄支部・ていねいふれあいサロン講座の講師・更生保護女性会・民生委員児童委員・教育相談員・母子保健推進員・食生活推進員・J A女性部・婦人会役員・沖縄県社会教育委員・教育委員会施策検討委員・沖縄市文化協会・小路の花押し花教室・沖縄県済州会・コザパイロットクラブ・人権擁護委員

私たちの期で取り組んできたこと・今後取り組みたいこと

- ・女性自立支援施設(しののめケアハウス)への支援
- ・沖縄県平和賞への支援
- ・沖縄の歴史、文化を学ぶ
- ・地域の環境を良くする(緑化・防犯・清掃等)
- ・施設訪問(介護・養護施設等)

表 彰

秩父宮記念結核予防保健看護功労賞・全国公民館連絡協議会優良職員表彰・全国母子保健推進会議会長賞・沖縄県知事表彰・沖縄県文化協会奨励賞・沖縄県文化協会功労賞・日本赤十字社銀色有効章受章・沖縄県民生委員児童委員長賞・沖縄県更生保護女性連盟会長賞・沖縄県母子保健大会会長賞

※琉球大学人文社会科学部比較地域文化博士後期課程修了(学術博士取得)

24期

2007(平成19)年
10月15日～20日

大韓民国

団 長

伊藝美智子

副団長

中森 えり

事務局長

宮里由紀子

団 員

赤嶺 裕子

大城 洋子

大屋 純子

川畑 邦子

岸本 文江

慶田城正子

佐藤百合子

島 明美

棚原八重子

富田 順子

松田 トシ

宮城 章乃

安村 和子

屋比久里美

山内 末子

参 与

板井ルミ子

(19人)

北朝鮮



大韓民国

日本

訪問先の主な研修ポイント

- ・韓国は「儒教の国」といわれ男尊女卑、家長、目上の人を敬う考えがある。しかしDVも多い。
- ・韓国の女性たち、とりわけ公的立場で働く人々がこの状況を改善する取り組みを行いDV対策において先進国となっている。その進んだ対策を学ぶことが今回の研修のポイントとなった。
- ・民間シェルターの取り組みが強く印象に残った。望まぬ妊娠への対応も被害者重視の政策がとられている。
- ・研修のもう一つのポイントは「韓国の食を学ぶ」であった。赤・白・緑・黄・黒の食材を使って作る韓国の薬膳料理を堪能し、食と健康、食の安全、キムチに代表される保存食について学んだ。

研 修 内 容



韓国女性ホットライン連合訪問

研修後の活動及び団員の親睦、交流

- ・研修終了後、各出身地域で研修報告を行った。年に1～2回ほど食事会を開催し交流を深めている。
- ・各地域において、教育関係の仕事や、女性を援助する取り組み、高齢者支援などの取り組みを行っている。

今後、私達の期で取り組みたいこと！

- ・24期の研修のテーマは「DV」だった。沖縄の子どもの貧困率は29.9%と全国一高いと言われている。DV→離婚→母子家庭→子どもの貧困は切り離せない関係にある。子どもの貧困対策は、各地域で特色を生かした取り組みを行っている。沖縄市で24期会員の棚原さんが開いている高齢者むけの食堂(ゆんたくサロン)をモデルに子どもの貧困に対応できる居場所作りを取り組んでいきたい。
- ・もう一つのテーマである「食」は、取り組みの中から安心な食事の大切さを伝えていきたい。



韓国の女性の文化を学んだ



韓国の赤・緑・・・の食事をいただく 至福のひと時



ソウル女性プラザで沖縄の民謡(安里屋ユンタ)を披露し文化交流



研修後の団員の活動



棚原八重子は16年の市議の活動を経てひとり暮らしの高齢者対策を行った。外に出たがらないお年寄りに外出の機会を作り、「ゆんたくサロン」を開所した。金曜日にはひとり暮らしの方たちに栄養満点の昼食を地域のボランティアと共に300円で提供し交流の場としてにぎわっている。



屋比久里美は、子どもの貧困対策として沖縄公庫が行っている融資制度を活用し、保育所の待機児童解消に取り組んでいる。「もっと多くの事業所が制度を利用して待機児童解消に取り組んでほしい」と話す。

25期

2008(平成20)年
9月23日～27日

ベトナム社会主義共和国

団 長

新城 洋子

副 団 長

宮城 勝子

事務局 長

崎原 末子

団 員

船附 初江

阿嘉よね子

仲西 郁代

普天間初子

宜野座順子

金城 京子

安谷屋信子

宮里 信子

仲 昌代

野底美智代

米盛 初恵

永吉ルリ子

亀谷 操枝

平岡 敏子

小底 拓子

天久千都勢

伊佐 冨子

宮城美代子

玉井美津枝

島袋 道子

参 与

翁長 孝枝

仲嶺マチ子

(25人)



ハノイ



ベトナム

私達シンチャオ25

沖縄県女性の翼の会一番の大所帯。研修国ベトナムの挨拶“Xin chào”
(シンチャオ)こんにちは25期25人からつけました。



研 修 先

女性教育推進エンパワーメントセンター／
ベトナム女性の地位向上のための国家委員会／ベトナム女性博物館
ベトナム女性連合／家族と性別研究センター

私達が訪れたベトナムハノイはどこか懐かしい沖縄の原風景を思い出させてくれるような親近感あふれる場所。

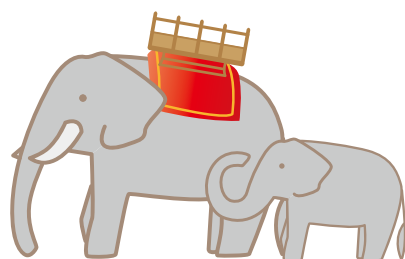
研修では「ワークライフバランス」、「ドメスティックバイオレンス(DV)」、「幼児教育事情」、「食育事情」についてテーマを絞っての研修となった。実際に足を運びベトナムの方々からお話を伺うことでより理解を深め、女性や子どもが抱える問題を痛感した実り多い研修となった。ベトナムでは2006年に男女平等法、また2007年DV防止法が採択。私達が訪れた2008年から施行されたばかりという状況であった。

その中でも草の根的に女性や子どものための支援を行っている女性教育推進エンパワーメントセンターの所長ハンさん(当時74歳)との出会いがシンチャオ25のメンバーの団結をより一層強固なものへと導いた。

ハンさんのお話を聞いた直後から…次の訪問先へと向かうバスの中ですでに沖縄に戻ってから私達に出来ることを！と支援を決めた。2009年からは沖縄ベトナム友好協会を通じてエンパワーメントセンターに寄付金を贈呈している。



研修で訪れた2008年 新城団長。その場でメンバーから寄せられた寄付金を贈呈



地域や職場で活躍するメンバー！

なかなか全員集合とはいきませんが集まればにぎやか！



個性的で楽しい仲間達(宿泊研修にて)



新聞記者を講師に沖縄の子どもの貧困問題について学ぶ
2015年1月



料理を持ち寄り交流・ユンタク会 2016年7月



2016年ハノイ。研修でシンチャオ25を代表して仲西・崎原が8年ぶりのハン代表(82歳)との再会



女性の翼30周年記念式典 2016年10月



シンチャオ25では研修の年から一貫してベトナムの女性と子どもたちのための支援活動を行っている。帰国後は会員間の交流を深める食事会また時にはテーマを設け講師を招き沖縄の子どもたちの貧困問題などについて考える勉強会等を行っている。メンバーは地域のリーダーはもちろん企業経営・市議会議員・女性財団理事長・沖縄県女性の翼の会の役員など。